

# 調査団報告書

調査No.51

## 調査内容

名鉄・小牧駅のそばで「名古屋コーチン発祥の地」と書かれた碑を見たのだけど、なんで名古屋コーチンは小牧発祥なのに「名古屋コーチン」なの？

## 調査手順

「名古屋コーチン」は、どのように生まれたのでしょうか。まず日本の養鶏の歴史を調べてみましょう。『日本養鶏史』によると明治17年（1884年）に元尾張藩士の海部兄弟（海部壮平（かいふそうへい）、海部正秀（かいふまさひで））が現在の小牧市池之内にて、地鶏と九斤（バフコーチンという説もあり）を掛け合わせて作出したとあります。当初は「海部種（カイフダネ）」、「薄毛（ウスゲ）」などと呼ばれていたようです。「名古屋コーチン」の呼称については『愛知の養鶏史』にも詳しく書かれています。なお、「コーチン」は『欧州家禽図鑑』によるとインドシナ半島南部コーチシナ（交趾支那：Cochin China）からきた名称ということです。

## 調査結果

実際には小牧発祥ですが、尾張藩出身の士族仲間が京阪地方に持って行き、「名古屋方面からきた鶏」ということで「名古屋コーチン」という名前で呼ばれるようになりました。明治38年（1905年）には日本家禽協会が「名古屋コーチン」を一つの品種として登録しました。大正8年（1919年）に「名古屋種」と改称しましたが、現在でも一般的には旧称である「名古屋コーチン」が使われています。なお、日本家禽協会の「名古屋コーチン」登録日にちなんで、平成28年（2016年）、日本記念日協会は3月10日を「名古屋コーチンの日」として認定しました。

## 今回の調査で使った資料

『日本食肉史基礎資料集成 第153輯 日本養鶏史』 栗田 1983

『愛知の養鶏史』 愛知の養鶏史編さん委員会 1987

『名古屋コーチン作出物語』 入谷哲夫／著 ブックショップ「マイタウン」 2000

『欧州家禽図鑑』 秋篠宮文仁／[ほか]著 平凡社 1994

『一般社団法人 日本記念日協会ホームページ』 <http://www.kinenbi.gr.jp/mypage/1056> (2017/1/17 アクセス)



作成：名古屋市図書館 名古屋なんでも調査団